

地域密着型サービス運営推進会議 報告書

- 会議名称：令和５年度 第２回（第１６回）地域密着型運営推進会議
■事業所名：デイサービスセンターなのはな
■種類：地域密着型通所介護
■日時：令和６年 ２月２２日（木） １９時３０分 ～ ２０時００分
■会場：デイサービスセンターなのはな

■出席者：

区分	人数	区分	人数
利用者代表			
利用者の家族		市役所職員	１
地域住民の代表	５	その他	
知見を有する者	１	事業者	２

■議題：

１．曜日別のサービスご利用人数（令和６年２月２０日現在）

（月）	（火）	（水）	（木）	（金）	（土）	（日）
８名	４名	８名	８名	７名	９名	５名

※：入院中、ショートステイ利用中の利用者様は含みません。

２．行事等活動報告（令和５年９月～６年２月 抜粋）

- ・令和５年 ９月 ミニ敬老会
- ・令和５年１２月 クリスマス会
- ・令和６年 １月 お正月
- ・令和６年 ２月 節分

前回の運営推進会議（８/３１）以降、例年他事業所と合同開催をしていた、敬老会（９月）や秋の運動会などの実施（復活）を検討しましたが、周辺で散発的にコロナ感染者が発生していたため、念のため合同開催は取り止め、当事業所単独で上記の行事などを行いました。

ミニ敬老会では、彩り鮮やかなちらし寿司とささやかなプレゼントをふるまい、空き缶ゲームでハラハラドキドキ、大いに盛り上がりました。

クリスマス会では、職員から利用者様に歌のプレゼント（「ジングルベル」＆「きよしこの夜」）。職員の美声？に感動？していただくとともに、お約束の被り物好きの男性利用者のダンスもあり、笑顔と感動？のクリスマスでした。

節分では、豆代わりの新聞紙を軽く丸めたボールを、鬼のお面をつけた男性職員めがけて力いっぱい投げて、「鬼は外！」。ストレスも外に飛んでいったようです。

まだまだコロナ禍が続いており、なかなか思い切った行事や、日々のレクができませんが、少しでも利用者様に楽しんでいただけるよう、様々な工夫をしていきたいと思えます。

3. 行事予定報告（令和6年7月まで）

- ・ 令和6年 3月 ひなまつり
- ・ 令和6年 5月 母の日
- ・ 令和6年 6月 父の日
- ・ 令和6年 7月 七夕会

※今後の行事については、新型コロナウイルスの感染拡大状況等をふまえ、慎重かつ臨機応変に対応していく所存です。

4. 職員の状況等

○職員の人事異動等：なし

○研修参加状況：

- オンライン研修は、新型コロナウイルス感染症関連を含めた社外研修に都度参加
- 社内集合研修は現在も原則自粛中（※）ですが、外部講師を招き、2回実施。

①10/18 リスクマネジメント研修（パート1）

研修担当：有限会社ウェルネット21 I氏

テーマ： 緊急時に必要な知識と対応方法について

②12/11 リスクマネジメント研修（パート2）

研修担当：有限会社ウェルネット21 I氏

テーマ： 虐待防止に関する基礎知識と事例検討

-デイサービスだけのミニ研修は、定例会議の場を活用し、下記のとおり開催

① 9/25 意識消失等急変時の初期対応

②11/25 誤嚥と窒息（※後日送迎時にご家族様にパンフ（別添）を配布し、注意喚起）

③12/25 感染防護具の着脱訓練

5. ヒヤリハット・事故報告

- ・ 令和5年9月1日～令和6年2月20日まで

ヒヤリハット：3件 事故：3件（重大：0件、中度：0件、軽度：3件）

※事故報告については、

①重大事故：骨折や死亡など行政への報告を要する重大な事故

②中度事故：医療機関受診は不要であるが、医師の指示を要する負傷など中程度の事故

③軽度事故：治療にあたり、施設内の看護師の指示で足りる程度の傷などの軽微な事故と区分しております。

6. ご報告・ご連絡事項、事例紹介等

（1）コロナ関連

- ・ 前回の運営推進会議（8/31）以降は、当事業所の職員、利用者様に感染者・濃厚接触者はゼロでした。なお、社内他事業所では職員が2名感染しましたが、幸い利用

者様等への感染拡大はなく、無事乗り切ることができました。

5類移行後の各種緩和やマスク着用率の目に見えての低下から見える社会の意識変化（緊張緩和？）がありますが、私たちは一度クラスターを発生させている苦い経験をした事業所として、今後も気を緩めず感染対策を継続し、利用者の些細な変調をとらえる職員の意識・観察力を更に向上させることにより、感染拡大を少しでも防げたら、と考えます。

- ・なお、三重県の社会的検査事業について、令和4年2月から会社全体で参加させていただいております。5類移行後も、本事業の抗原定性検査に継続参加し、直近は2/16で、陽性者なしでした。

（2）事例紹介

①重度認知症利用者の意識消失による救急搬送（9月）

- ・椅子から立ち上った直後に意識消失。ベッドで安静後、意識は戻ったが、利用中初めての意識消失であったため、救急搬送を要請。
- ・日赤への搬送となるも、入院には至らず。原因は不明であったが、排尿障害に係る服薬を開始した影響による可能性。

②昼食時のマカロニサラダの誤嚥（11月）

- ・認知症なし、一人暮らしの97歳の女性利用者。通常よく嚥まず、すすり食い気味。
- ・研修で来ていたネパール人職員が、誤嚥して苦しんでいることに気づき、すぐに食物除去等を行い大事に至らず。

③人形セラピー？（12月～）

- ・認知症が進行し、感情表現も乏しい利用者様に人形の世話をしていただいた結果目に見えて笑顔などの感情表現が増え、食欲も高まるなど、良い効果があったと推測します。

上記①②の事例のように、デイサービスでも、意識消失や誤嚥（窒息）など、命の危険に直結することが起こりますが、まずは早く気づき迅速に対応することが肝心と考えます。①、②ともに、日頃口酸っぱく言われている「見守り」の重要さが身に染みた事例でした。

なお、②の事例に関して、その後の取り組みとして、本人だけでなく誤嚥の多い利用者様に食べ方の改善を提案・訓練しておりますが、数十年染みついた癖はなかなか直らず、というのが実態です。デイサービスでは見守りがあるので、私達のほうでいくらか防止を図れますが、ご自宅での独食では、まさに命にかかわるので、根気よく提案・訓練していきたいと思います。

（3）その他

- ・地域との交流は、今年度も計画していたことがほとんどできなかったもので、今後は周囲の状況をみながら、徐々に取り組んでいきたいと思います。
- ・視覚や聴覚に障害がある利用様もおられますが、どの利用様もできるレクリエーションを色々試しておりますが、マンネリ気味であるのは否めず。来年度は試行錯誤しながらでも、充実させていきたいです。

■質疑応答、ご意見等

(老人会会長)

- ・誤嚥について、老人会では口腔体操などに力を入れ、一定の効果が出ています。

(なのはな)

- ・今回の取り組みは、食べ方の改善などがメインで、口腔体操や発声練習には毎日取り組んでいます、まだまだ不十分でした。
- ・今後は、体操やリハビリの観点からも誤嚥防止に努めていきたいです。貴重なアドバイス、ありがとうございました。

(市役所職員様)

- ・節分で新聞紙を丸めての豆まきはうまくいきましたか？鬼は痛くなかったですか？

(なのはな)

- ・利用者様にもお願いして、大きめにあまり固くならないよう大きめにつくって、事前に実際投げてみたりしたので、わりとうまくいったと思います。

【次回】「グループホームなのはな」の令和6年8月度の運営推進会議と同日に開催予定

以 上

【ご連絡先】

デイサービスセンターなのはな

担当 梶口（かじぐち）

TEL 0599-84-3777